

<b>学校教育目標</b>	【伸びよう 豊かに たくましく ~学ぶ喜びにあふれた学校をめざして~ 】				
	○進んで学び、問題解決に向け、最後までやり抜く子を育てます。(知) ○自分や友達を思いやり、心豊かな子を育てます。(徳) ○自他の命を大切にし、健康でたくましい体をつくる子を育てます。(体) ○様々な人とのコミュニケーションを通して、社会に役立つために行動し、社会への視野を広げる子を育てます。				
<b>学校概要</b>	創立 147 周年	学校長 赤坂 桂	副校長 菅野 雅樹	2 学期制	一般学級: 17 個別支援学級: 3
	児童生徒数: 506 人	主な関係校: 高田中学校 高田東小学校			

<b>教育課程全体で育成を目指す資質・能力</b>	<b>中ブロック</b>	<b>小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組</b>
①言語能力 ②情報活用能力 ③問題発見・課題解決能力 ④自ら進んで学び、高めようとする力 ⑤協働してよりよい社会にしていこうとする力	高田中学校 高田東小学校	自らすすんで学び続ける子 仲間と協力してよりよい社会の実現を目指す子 ----- ○3人会議、12人会議を中心に、90人会議、合同教科主任会、授業研究会を行い、各学校間での小中一貫教育の推進と各学校間の職員交流に努める。 ○併設型小中学校としての目指すべき「子ども像」を作成し、その達成にむけた9年間一貫したカリキュラムづくりを行う。

<b>中期取組目標</b>	○基礎・基本の定着を図り、学ぶことの喜びを実感させるために、教職員の授業力を高め各教科等の学習指導の充実に努めます。 ○全職員の共通理解のもと、配慮を要する児童の豊かな成長のために全職員で対応します。 ○自他の生命を尊重する心をもつ児童の育成を図るため、全教職員の共通理解のもと児童指導の充実に努めます。また、豊かな社会性が育成されるよう家庭・地域と協働します。
---------------	---

重点取組分野	具体的取組
<b>確かな学力</b>	①授業時数や指導時期を考慮しながらカリキュラムを適宜更新し、授業実践を積み重ねる。授業研究会を定期開催し、指導力の向上を図る。②算数によるTTの実施や教員の専門性を活かした教科担任制、取出し指導の実施等、児童の実態に応じた指導体制を構築する。
<b>豊かな心</b>	①行事や学級活動を可能な限り再開し、児童の自主的な活動や自己有用感の育成が図られるよう努める。 ②「あいさつ運動」を通じて、児童一人ひとりの他との豊かなコミュニケーション力の育成を図る。
<b>健やかな体</b>	①感染症予防についての正しい知識と生活習慣を学校保健委員会や保健委員会の取組等で広め、健康に家庭・学校生活を送ることができるようにする。②活動に制限がある中においても体育の授業や集会活動の取組を工夫し、児童が楽しみながら継続して体力を付けていけるように工夫する。
<b>児童指導</b>	①学級、学年、学校全体で児童に関する情報交換を密に、児童の変化を共有する。 ②「いじめ防止アンケート」を実施し、実態調査に努め、早期発見早期対応を実践していく。③学習や生活の中で、その場に合った態度や行動を取ったり、善悪の判断ができるよう適宜指導する。
<b>健康安全教育</b>	①児童を対象とする、交通安全、健康、心のケアに関する学習の促進を図る。特に登校班の変更に伴う指導を重点化する。②危機管理(防犯・防災)に基づく災害発生時や学校事故等の緊急事態発生時に適切で迅速な対応ができるための体制づくりを行う。
<b>特別支援教育</b>	①個々の特性に応じて特別支援教育指導計画を作成し、学年、専任、特別支援コーディネーター等で組織的に対応できるよう努める。 ②特別支援教育の理解と具体的な対応が図れる指導力を培うため、研修や情報交換の充実に努める。
<b>地域連携</b>	①学校だよりや学校HPの活用や学校説明会等を通じて、学校の現状を地域保護者に紹介する。 ②学校家庭地域連携事業や地域活動に協力し、地域との関係を深める。 ③地域の施設など、まちを材とした授業の開発に取り組む。
<b>学校運営協議会</b>	①各学校の成果と課題をわかりやすく伝える。 ②学校評価の結果を分析しながら、学校運営の理解と協力を得られるようにする。 ③小中連携を幅広く地域に知らせていく。委員主体の活動へと意識を高める。
<b>いじめへの対応</b>	①学校全体で児童に関する情報交換を密に、児童の変化を共有しいじめの早期発見に努める。 ②学校行事や児童会活動、学級活動を通じて、いじめ防止の取組を行う。 ③「いじめ防止アンケート」を実施し、実態調査に努め、早期発見早期対応を実践していく。
<b>人材育成・組織運営(働き方改革)</b>	①メンタチームを3年次までの教職員を中心に組織し、月に一回程度の活動時間を確保するとともに、リーダーを中心に活動内容を計画する。②教職員一人ひとりがもてる力を発揮して、主体的に学校運営に関わっていくように、教務が中心となって組織や校務分掌を見直し効率化を図る。